

ほくほく



北見赤十字病院・北海道立北見病院合同ハートチーム誕生

～2病院が協力してカテーテルアブレーション(不整脈治療)を実施～

2018年に日赤病院と道立病院の合同ハートチームが誕生しました。2つの病院のスタッフが協力して、心臓病の患者さんひとりひとりに最適な治療を提供します。カテーテルアブレーション治療によって不整脈発作の不安から開放されます。循環器内科と麻酔科の医師、看護師、臨床工学技士、診療放射線技師など多くのスタッフが力を合わせて治療を行っています。

また、電気ショック機能がついたペースメーカーの手術をオホーツク地方で行うことができるのは合同ハートチームのみです。これからも、患者さんの生活を循環器医療の面から合同ハートチームが支えています。ご相談は日赤の外来でも道立の外来でも受け付けています。どうぞよろしくお願いいたします。



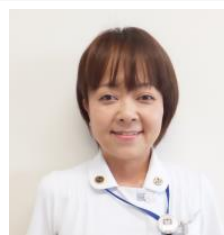
読者のみなさんこんにちは！今回は感染症看護専門看護師と感染管理認定看護師を紹介します。
私たちは、日本看護協会が「国民への質の高い医療の提供」を目的として認定する専門看護師/認定看護師の資格を取得し、感染管理室という部署に所属しています。

病棟や外来で、医師の診療補助や患者さんの療養上のお世話をを行うといった看護業務は行わず、「感染制御チーム」の一員として医師・薬剤師・臨床検査技師とともに感染症発生の監視や感染対策に関する相談や教育といった業務に特化して活動しています。言わば裏方的な役割ですが、ひとたび感染症発生の兆候が確認されると、直ちに院内各部署に適切な対策を指示して感染拡大を防ぐという重要な役割を担っています。

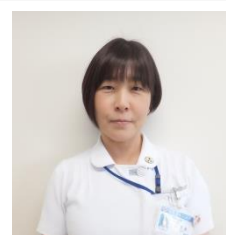
新型コロナウイルスパンデミック以降は、院内の感染対策に加え北見市や保健所と連携してワクチン接種準備やクラスター発生施設での感染対策指導にも参加しました。新型コロナウイルスは未知の感染症であるが故に手探りの実践も多かったのですが、職員が一丸となり知恵と想像力を駆使してどうにかここまで来ることができました。振り返れば困難続きの2年間でしたが、全てが私たちを成長させる貴重な体験だったと今は感じています。

最後に、私たちの活動はみなさんがイメージする看護師像とは少し違ったかもしれませんが、医療従事者が安全で適切に業務を行えるように支援する事が、当院を利用される全ての方々に質の高い医療と安全を与えることに繋がることと信じ、熱く活動している私たちです。

このような看護師がいることを少しでも知っていただけたなら嬉しい限りです。



感染管理室
感染症看護専門看護師
松澤 由香里



感染管理室
感染管理認定看護師
高田 真美

北見赤十字病院・道立北見病院 職員による

出前講座 ご案内

病院には多くの職種の方が働いています。
地域の医療支援病院として、地域の皆さまに当院職員の医療知識を還元し、地域の皆さまと顔の見える関係を作り、更なる連携をより一層深めて行くことを目指しております。

ご利用シーン～オホーツク総合振興局管内～

教育の場で

医療機関で

公的機関で

介護施設で

等々…



是非！
ご活用下さい！！

詳細については、【実施要領】をご確認の上、
ご不明な点は

北見赤十字病院(代表:0157-24-3115)

担当:事業課まで

「令和 4 年度北見赤十字病院常備救護班任命式」の実施



日本赤十字社では、災害時に必要とされる救護を円滑に行うため、常に災害対応できる体制をつくり、災害時にはいち早く救護班等を派遣します。救護班とは、医師 1 人（班長）・看護師長 1 人・看護師 2 人・主事 2 人の計 6 人を基準に編成し、当院は 4 班の編成を行っております。

令和 4 年 4 月 18 日（月）に常備救護班任命式を行い、今年度の活動方針等を共有しました。

今後とも赤十字の活動にご理解・ご協力をお願い致します。



※撮影時のみマスクを外しています

管理栄養士による

OSUSUME!!おうちごはん



材料

- ・鶏肉
(骨つき半身・手羽先・もも肉・胸肉などや、魚の切り身でも OK)
- ・塩こうじ（材料の 10% 程度）
- ・付け合わせに、お好みの野菜 適量



作り方

- ①鶏肉に塩こうじを塗り込んで、しばらく置く
(半日～1 日つけておいても OK)
- ②オーブンや魚焼きグリルで焼く



Arrange

ブラックペッパーやお好みのハーブ、
にんにくのすりおろしを加えても美味！

おすすめポイント

塩こうじにより、お肉はやわらかく仕上がりに、塩味もまろやか！

時間がない時でも、簡単に作ることができ、焼いている間に、他に 1 品作ることもできますよ

これってどうなの？ 認知症

～認知症疾患医療センターについて～

「認知症にはなりたくない」という言葉をよく耳にしますが、年をとれば誰でも認知症になる可能性はあり、決して特別なことではありません。認知症になっても多少の不自由を補いながら元気にハツラツと暮らしている方もいますが、困ったことがクローズアップされがちなことや、多くの方が認知症に対する正しい理解を知らない（知る機会が少ない）というのが、なりたくないと思う理由のひとつかもしれません。

認知症で大事なことは「**早期診断・早期治療**」、そして何より“**日頃からいきいき楽しく過ごす**”ことです。

認知症疾患医療センターでは、もの忘れに関する相談をお受けしています。もの忘れで受診した場合、生活状況などを詳しく聞き取り、画像検査や心理検査などを行い、認知症の有無、認知症であればどのタイプの認知症なのかを調べて結果をお伝えします。なかには認知症を心配して検査したら、実は脳の病気だったという方もいるので、やはり早めの受診は大切です。認知症と診断を受けたあとは、精神保健福祉士や看護師がご本人やご家族と日頃の困りごとや不安、今後のことについてなどお話しする時間も設けています。認知症になっても望む暮らしができるだけ続けられるよう、一緒に考えていきたいと思っています。また、地域の相談窓口のご紹介や関係機関と連携したり、社会保障制度の活用についてお話をさせていただいたりもします。

「もしかして認知症かも…」と悶々と悩み続けるより、まずは早めに相談してみませんか？

連絡先:0157-24-3115(代) 認知症疾患医療センター(精神保健対策推進室内)

次回は「認知症のタイプと症状について」のおはなし

所在地



北見赤十字病院

〒090-8666
北海道北見市北6条東2丁目1番地
TEL 0157-24-3115

北海道立北見病院

〒090-0027
北海道北見市北7条東2丁目2番1
TEL 0157-24-6261

北見赤十字病院・道立北見病院広報誌「ほくほく」について

広報誌「ほくほく」の名前は、病院職員から募集し、その中から選考しました。
北見赤十字病院の「北」と北海道立北見病院「北」をつなげ、安心感のある「ひらがな」で表現しています。地域の皆様に安心できる情報をお伝えして行きたいと思います。

急募

本広報紙「ほくほく」の

マスコットキャラクター募集開始！！

締切りは2022年7月31日(日)

詳細は右のQRコードから▶▶▶▶

